

八千代市公共下水道事業 事業再々評価（汚水）

平成20年11月
千葉県八千代市

八千代市の概要



八千代市は、昭和42年市制を施行以降も、首都圏のベッドタウンとして大規模住宅団地が造成され、増加する人口の通勤対策として、東葉高速鉄道が開通された。



「平成17年5月八千代市広報公聴会撮影」

事業の必要性(汚水)

生活環境の改善
市民生活環境の改善

公共用水域の水質保全
印旛沼の自然環境を守る

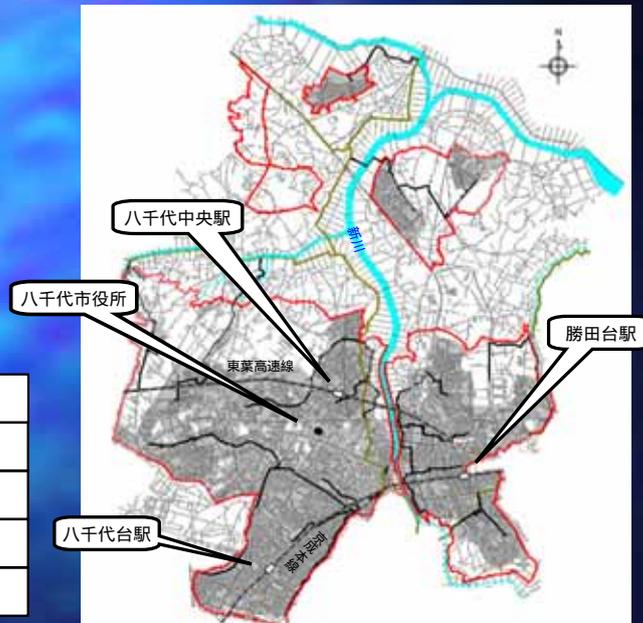


印旛沼流域の新川を望む

「平成17年5月八千代市広報公聴会撮影」

下水道事業の概要(汚水)

凡 例	
	下水道計画区域 (再々評価対象区域)
	整備済区域
	汚水幹線
	流域下水道幹線



指標1 費用効果分析(汚水)

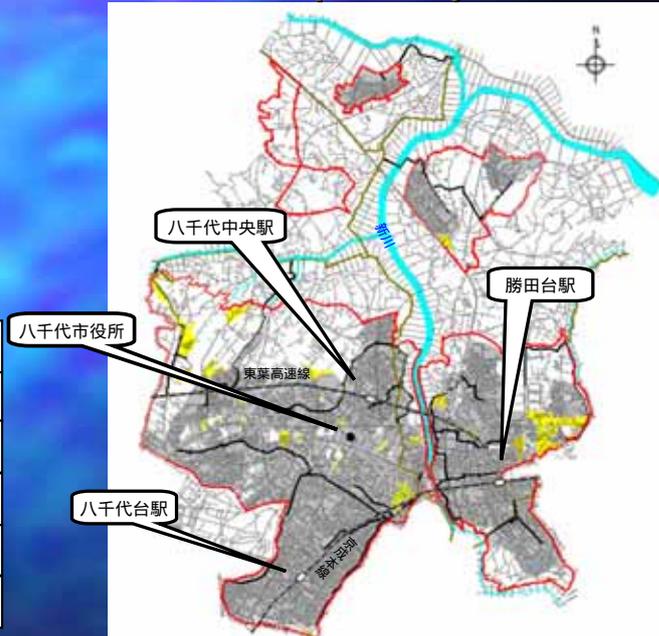
総便益 (B)	5,007億円
総費用 (C)	2,142億円
費用便益比 (B / C)	2.3

指標2 事業の進捗状況(汚水)

指 標	状 況
事業の進捗状況	平成20年度までの整備面積は、事業計画2,015ha に対して、1,780haを整備し、整備率は88%である。
処理場用地の取得状況	
処理施設の供用状況	
供用開始区域の接続状況	接続率は 98% である。
地元情勢等	八千代市議会の理解及び地元住民の協力は得 られている。

指標2 事業の進捗状況(汚水)

凡 例	
	下水道計画区域 (再々評価対象区域)
	H10年度未迄整備区域
	H11～H20年度整備区域
	汚 水 幹 線
	流域下水道幹線



指標3 社会経済情勢等(汚水)

指 標	状 況
社会経済情勢	新たな開発等もなく、下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特にな い。
自然環境条件	水質汚濁に係る水質環境基準の新たな設 定等、下水道事業に影響のある要因はな い。
計画変更の有無 及びその程度	全体計画及び事業計画について、必要に 応じ適切に見直している。

指標4 コスト縮減・代替案(汚水)

指 標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤砕石等再生資材の利用によりコスト縮減に努めている。
代替案	本市の市街化の状況から、代替としての浄化槽整備よりも、下水道整備が最適。

対応方針(汚水)案

八千代市公共下水道事業(汚水)は順調に進展しており、今後も順調な進展が見込まれることから、当該事業を継続していく方針です。

八千代市公共下水道事業 事業再々評価（雨水）

平成20年11月
千葉県八千代市

八千代市の概要



八千代市は、昭和42年市制を施行以降も、首都圏のベッドタウンとして大規模住宅団地が造成され、増加する人口の通勤対策として、東葉高速鉄道が開通された。



「平成17年5月八千代市広報公聴録撮影」

事業の必要性(雨水)

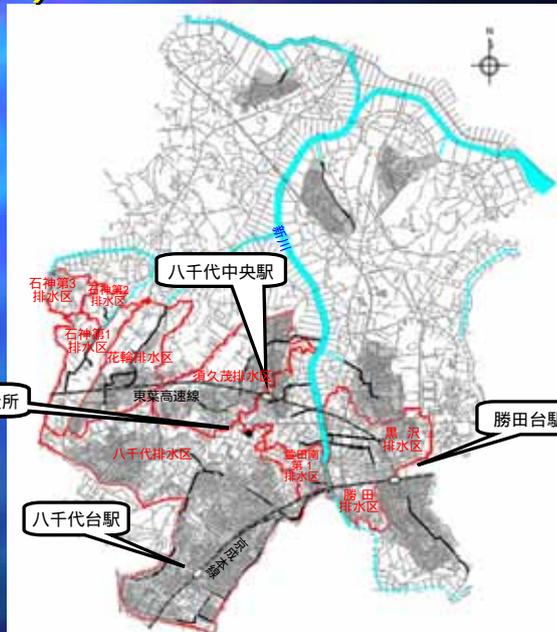
浸水の防除
 浸水による被害から住民の安全と財産を守る

写真:大和田新田地区



事業の概要(雨水)

凡 例	
	下水道計画区域 (再々評価対象区域)
	整備済区域
	雨水幹線



指標1 費用効果分析(雨水)

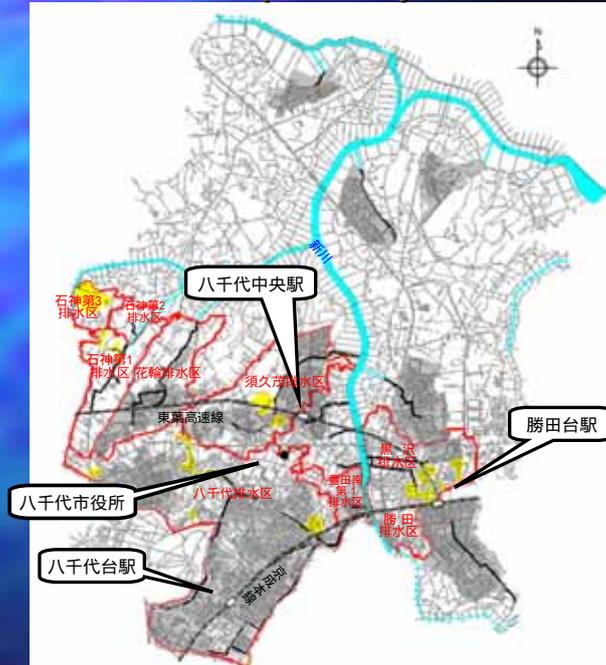
総便益 (B)	1,213億円
総費用 (C)	543億円
費用便益比 (B / C)	1.4 ~ 2.6

指標2 事業の進捗状況(雨水)

指 標	状 況
事業の進捗状況	平成20年度までの整備面積は、事業計画1,435ha に対して、608haを整備し、整備率が42%である。
地元情勢等	八千代市議会の理解及び地元住民の協力は得 られている。

指標2 事業の進捗状況(雨水)

凡 例	
	下水道計画区域 (再々評価対象区域)
	H10年度未迄整備区域
	H11～H20年度整備区域
	雨水幹線



指標3 社会経済情勢等(雨水)

指 標	状 況
社会経済情勢	新たな開発等もなく、下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特にな い。
計画変更の有無 及びその程度	全体計画及び事業計画について、必要に 応じ適切に見直している。

指標4 コスト縮減・代替案(雨水)

指 標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤砕石等再生資材の利用により、コスト縮減に努めている。

対応方針(雨水)案

八千代市公共下水道事業(雨水)は、今後も整備が必要とされることから、当事業を継続していく方針です。